

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 24 年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award  
研究発表報告書

申請者氏名	渡邊 康春	会員番号	0032423
申請者の所属・職名	富山大学大学院医学薬学研究部 (医学) 免疫バイオ・創薬探索研究講座・研究員		
出席会議名	Immunology 2012™ 99 <sup>th</sup> Annual Meeting The American Association of Immunologists		
発表論文タイトル	The Radioprotective 105/MD-1 Complex Contributes to Diet-induced Obesity and Adipose Tissue Inflammation		

実施結果:

2012年5月4日から8日にかけてアメリカ・ボストンで開催された“Immunology 2012™ 99<sup>th</sup> Annual Meeting The American Association of Immunologists”に参加し、口頭発表及びポスター発表を行いました。発表内容は、TLR4 と相同性をもつ分子 RP105 とその会合分子 MD-1 が、肥満に伴う慢性炎症に重要な役割を果たしていることを報告しました。会場からの質問や討議終了後では、ヒトにおける研究の発展の可能性を指摘され、本研究の重要性をアピールできたものと確信しております。

質問で指摘されたように、会議全体的に、臨床と基礎研究の距離間が近く感じられました。聴講した Major symposium では、一次感染後に誘導される抗炎症性マクロファージ細胞である M2 マクロファージが二次感染を助長することや、バンコマイシン耐性腸内細菌の除菌に、TLR5 を介した生体防御機能の活性が重要であることについて、臨床的な知見から基礎研究にフィードバックされるストーリー展開での報告がありました。臨床と基礎研究が密接に連携したデータは、説得力と研究の重要性が明確であり、基礎研究の応用をも見据えられていました。将来的には、臨床研究の基礎研究の垣根を低くし、システム的に統合した研究がまさに期待されているということを改めて実感しました。

今回の会議を通し、体系的に実験を行うように視野を広げる必要性を強く感じました。また、視点の転換の必要性など今後研究者として成長するにあたり、更なる改善点や課題が浮き彫りとなり、大変よい機会になりました。

Tadamitsu Kishimoto International Travel Award を賜りありがとうございました。岸本先生はじめ日本免疫学会の先生方、事務の方々に心より感謝申し上げます。今回の経験を糧に、更に研究に精進していきたいと思っております。